

「継続は力なり」を共有できる家庭や社会の先には・・・

のらえもん代表 古高 利男

のらえもんの活動は、本年度（平成29年度）で17年目、会員制になってから9年目になります。この間「継続は力なり」を実感しながら、次への活動のエネルギーにしてきました。

一つの例として、スキー教室があります。初めてのスキー教室ではリフトにほとんどの子が乗れませんでした。3年目で初めて全員がリフトに乗れ、ゲレンデを滑ることが出来たのです。1年にたった1回の活動でも、続けていくうちに光が見えてきました。子どもたちは成長の力を示してくれました。そして、毎年参加させてきた親の強い愛が見えてくるのでした。それらが後押ししてくれて、これまで活動を続けてこられたのです。

活動を続けているうちに、活動の柱がだんだんと4つに明確化してきました。

①飼育的活動、②田んぼ体験活動、③里山体験活動、④雪の体験活動です。

①飼育的活動

4月はカブトムシの幼虫の配布、5月にはカイコの卵を、12月にはサケの受精卵を、それぞれ希望する小学校・保育園に配布してきました。カイコの飼育は飼いやすさとともに清潔で安全です。サケの受精卵の成長の様子は、子どもたちにとって発見と感動があります。ともに、利用価値の高い教材です。依頼があれば、出前授業にも出かけています。保育園からの希望が多くなり、子どもたちの未来に夢を重ねています。

カイコやサケの一生を学ぶことは、人は生き物と深く関わって、どちらかという助けられて生きているということを知る良いチャンスだと考えています。

②田んぼ体験活動

5月の田植え、9月の稲刈り、11月の新米販売、12月の注連縄づくりです。

私たち日本人が主食としている白米。その生産現場を見る・体験をすることは、年中行事や日本の風土を理解するうえで、大きな意味を持つことでしょう。田植えのときのどろんこやオタマジャクシ、稲刈りのときの穂の重みとともに稲のにおいやかゆさ、そして稲穂から飛び出してくるトンボ・バッタ・カエル、コンバインから軽トラに移される粃、袋詰めされた新米「のらえもん米」、藁からしめ縄飾りを作る様子、それらのイメージはご飯を食べるときの美味しい味となり家族の会話を盛り上げ、一人一人の心身の成長へとつながっていくのではないのでしょうか。

③里山体験活動

下流の都市部の消費を支えているのが上流である山間部の里山であることから、里山の関心を深めるために、里山フィールド体験活動を続けて8年目になります。

そのフィールドの拠点が、みなかみ町藤原にある古民家です。古民家を利用するようになってから、のらえもんの活動内容を広げられるようになってきました。

目の前に田んぼがあり、7月にはホテルが乱舞し、遠くには谷川連峰の山々が見えます。そんな環境の中で、ストーブの火入れから1日がスタートします。活動は、草木染め・弓

矢作り・竹箸作り・すぐ裏の雨呼山ハイキング・小川での岩魚釣り・上ノ原の茅場散策・すぐ下の体育館でのレクリエーション・ホテル鑑賞・星空観察などです。

特に、草木染めは、1日目にハンカチに模様を付けて玉ねぎ液の中に放り込んでおきます。3日目に、小川で水洗いし、一本の紐にぶら下げておきます。活動から帰ってくると、里山の風景の中ですっかり乾いているのです。

なによりも、薪ストーブの煙突から立ち上る白い煙は、人と里山との融和をあらわしているような気持ちになるから不思議です。

④雪の体験活動

寒さや雪への理解を深め、それらを工夫しながらすすんで利用できる力をつけるために、スキー教室や里山をかんじきで歩いたりカエデの樹液からメイプルシロップができることを学んだりしています。

雪原を自由に歩いたり雪を被りながらも樹木の新芽が育っていることに気づくと、寒さや雪は生命を育てていることに気づきます。

冬は負のイメージが強いのですが、冬だからこそ出来ることもたくさんあることを知ってもらい、冬の閉鎖性から開放性へと視点を変換させていきたいと考えています。それは、囿らずも、わたしたちの困難への挑戦と人や自然という対象者への慈しみを深めるチャンスでもあるように思えてきます。

のらえもんの活動を17年間続けてこられた要因を考えたとき、一つは会員の皆様が参加してくれたことです。それを可能にしたのは、会員の皆様の「日常性」に余裕があったからだと考えています。日常性とは、私が思い浮かべるのは睡眠時間と労働時間を引いた残りの時間です。自分のことや家族のことを顧みる必要不可欠な時間であり、この時間の持続は次の活動や夢を生み出し相手への思いやりに繋がってきたのです。そして、社会生活を再生産し続けてきた原動力であったのです。

1年に1回の活動の積み重ねを「尊し」とする社会全体の共通認識が広がる程に、安全・安心な社会が近づいてくるように思えるのです。

最後になりましたが、のらえもんの活動には会員を始めたくさんの方々にご協力・ご支援をいただきました。あらためて、心より感謝申し上げます。

古民家および上ノ原草原の利用を快諾してくださった藤原在住の北山郁人様・森林塾青水様、古民家キャンプでは何かとお世話になった阿部典子様・民宿関ヶ原様、田植え・稲刈り・注連縄づくりなどで多大なご協力をいただいている宅間農園様、土呂部の里山で森の恵みに気づかせてくれた日光茅ボッチの会代表の飯村孝文様、ハゼつりではエサの用意から仕掛けの世話までしてくれる福藤恭司様、注連縄づくりや押し花遊びで快く会場を提供してくれる鹿浜五色桜小学校長高山直也様、毎回安全運転で会場まで運んでくれるヨツバ観光様、そしてのらえもんの活動に心からの声援を送ってくれる環境学専門の大学教授佐島群巳様、そして、そして何よりものらえもんの活動に時を越えて様々な教示を与えてくれる大自然に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

29年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 9 (日)	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布	都市農業公園	大 14 高 1 中 1 小 6 幼 4 計 26
2	4月29～30日 1泊2日	古民家宿泊体験 早春の里山散策 春の星空観察	みなかみ町 藤原	大 4 中 0 小 2 幼 0 計 6
3	5月14 (日)	田植え体験 イチゴ狩り アサヒビール工場見学 バス利用	宅間農園 アサヒビール 守谷工場	大 37 高 2 中 1 小 16 幼 6 計 62
4	6月10～11 (日) 1泊2日	早春の土呂部の里山探検 ・ワラビ採り ・バードウォッチング	日光市栗山郷 土呂部 民宿:水ばしよ う苑	大 3 計 3
5	7月21～23日 2泊3日	古民家キャンプ 2回目 上ノ原散策、矢木沢ダム 弓矢づくり、草木染め	みなかみ町 藤原	大 15 高 1 小 7 幼 3 計 26
6	9月3日	ハゼを釣ろう・川岸の生き物 講師:福藤 恭司 ハゼ・・・ 7 セイゴ・・・ 6 幻の鯉 50cmはあつ た! カニ、	都市農業公園 下の荒川	大 15 中 1 小 9 幼 5 計 30

7	9月 10 (日)	稲刈りとうどんづくり体験 7回目の稲刈り体験	宅間農園 あすなろの里	大 26 高 1 中 3 小 11 幼 4 計 46
8	10月7～8 (日) 1泊2日	雲取山登山 標高2017m	奥多摩 雲取山 雲取山荘泊	大 4 高 1 小 3 計 8
9	11月 11 (土)	のらえもん米の販売 購入量 約600kg	いきいき館 駐車場	協力者 約40人
10	12月 2 (土)	サケの受精卵配布および 川岸の生き物 *今年は受精卵を手に入れることはできませんでした。	都市農業公園 新芝川～荒川	大 8 小 3 幼 3 計 14
**	11月11日 (土) 12月27日 (水)	行ってきました出前授業 草木染め 7名 注連縄づくり 9名	いきいき館	小 16
11	12月25 (日)	しめ縄をつくろう ・ わら、稲穂 終了後、忘年会	鹿浜五色桜小 図工室	大 16 中 1 小 11 幼 3 計 31
12	1月27～28日	スキー体験10回目 ・ 自分のイメージで滑 ってみよう ・ 夜の交流会 バス利用	菅平ダボスス キー場 菅平プリンス ホテル	大 8 高 3 中 1 小 6 幼 2 計 20
13	2月10日 (日)	押し花遊び	鹿浜五色桜小 図工室	大 5 中 1 小 2 幼 1 計 9

14	2月24～25(日) 1泊2日	土呂部のごちそう かんじき体験 メイプルシロップ ソリ遊び	日光市栗山郷 土呂部 民宿:水ばしょ う苑	大 4 小 1 幼 2 計 7
15	3月10日(土)	梅見物と早春の生き物観察 梅は終わり	都市農業公園 新芝川	大 2 幼 1 計 3

29年度参加者:

大人201、高校生9、中学生8、小学生54、幼児34、合計306

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、小学校や保育園に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵は、サケの遡上が少なく、入手できませんでした。

* のらえもん出前授業

次のような内容で、保育園や生き生き館に出前授業しました。

- カイコの育ち方
- 草木染め
- しめ縄づくり